

管路診断コンサルタント協会

管診鏡

安全・迅速・安価に

○技術概要

管診鏡は、360度カメラを用いたマンホール点検用カメラ(MC)と、高解像度カメラを用いた管口カメラ(PC)の2種類の管路施設点検機材である。①鮮明な画像で点検の品質を向上②マンホールや管内に入ることなく安全な点検が可能③軽量で運搬と取り扱いが容易で点検効率を向上④市販のカメラ機器を用いて点検価格を大幅に削減——という四つの特長を有する。

○浸入水対策に貢献
この点検機材は不明水、特に雨天時浸入水の現状把握と対策検討にも有効な技術である。雨天時浸入水調査では、降雨後の限られた時間により多くの箇所を確認することで、浸入箇所の見込み可能性が高まる。管診鏡を利用することで、地上からマンホール・管口の状況を簡単に確認することができ、調査箇所数を大幅に増やすことが可能。また、雨天後は道路の状況が悪化し交通に影響が出ることもあるが、交通支障

を減らし調査による影響も軽減することができる。さらに管内にある程度の流水があっても調査が可能である。

また、MC・PCともに4



管診鏡MC(右)およびPC(左)



現場点検の様子

K品質の高解像度カメラを使用し、詳細な調査が可能。MCの360度カメラは1度の調査でマンホール全体を撮影でき、撮影漏れがない。浸入水が疑われる箇所をズームして詳細を確認することも可能である。PCのカメラも3・8倍光学ズームと高輝度ライトを搭載し、管内の状況によつては管口から10m以上先の状況も確認可能である。6m

の伸縮ポールを付属しており、さまざまな深度のマンホール、管路に対応している。浸入水対策には、日常の老朽化対策も欠かせない。管診鏡は予防保全としての管路施設点検機材として、多くの施設で活用されている。当法人は効率的、高品質、安全な点検技術を通じ、健全な下水道機能の維持に貢献する所存である。



管診鏡PCによる浸入水の映像